

安本先生 おすすめ本

『葉っぱのフレディ』

レオ・バスカーリア／作 みらい なな／訳
島田 光雄／画 童話屋 (1998)

わたしたちはどこから来て、どこへ行くの
だろう。生きるとは。死とは。人は生きている
かぎりこうした問いをつづけています。葉っ
ぱのフレディといっしょに人生を「考えて」み
ませんか? 85 年講談社刊「フレディ」の新訳。

『わたしはマララ 教育のために立ち上がり、 タリバンに撃たれた少女』

マララ・ユスフザイ クリスティーナ・ラム／著
金原 瑞人・西田 佳子／訳
学研マーケティング (2013)

女性が教育を受ける権利を訴えて、イスラ
ム武装勢力に銃撃された 16 歳の少女マララの
手記。幼少期から、タリバンの台頭による混
乱、銃撃事件とその後までを綴る。国連本部で
のスピーチも収録。

『金子みすゞがうたう心のふるさと』

上山 大峻／著 自照社出版 (2011)

いのちへの愛しさと哀しさが綴られている
金子みすゞの詩。そのやさしさはどこから生
まれてくるのか。31 篇の詩と生まれ故郷の風
土からひもとく。

『無手の法悦』

大石 順教／著 春秋社 (1980)

貸座敷での殺傷事件に巻き込まれ、両腕を
失った芸妓。彼女は口にくわえた筆で更紗絵
を描いて生計を立て、福祉活動に身を投じる。
その彼女が半生を綴った自伝。

『かぜのでんわ』

いもと ようこ／作絵 金の星社 (2014)

山の上に一台の電話が置いてあります。今
日も誰かがやってきました。線のつながって
いないその電話で話をするために。岩手県大
槌町にある「風の電話」をもとにした絵本。

『仏教とターミナル・ケア』

水谷 幸正／編 法蔵館 (1996)

日本人の風土に即したターミナル・ケアは
どうあるべきか。ブッダの死の迎え方や浄土
宗の臨終儀式など、具体事例にのっとして、豊
富に死の看とりの歴史を辿る。そして実践の
課題と人材育成のカリキュラムも含め総合的
に論じる。

『赤米のねがい 古代からのメッセージ』

安本 義正／著 近代文芸社 (1994)

100 年以上の沈黙を破り、赤米が私たちの生
き方について警鐘をならす一方、その強さ、優
しさ、豊かさを遺憾なく発揮、新しい文化の創
造に大いに貢献している。赤米を様々な角度
から取り上げた本。

